

「この人 76」

菅野あたる 75歳 千葉県

編集部 俳句を始められたきっかけは？

菅 野 昭和五十八年に当時住んでいたマンション自治会の俳句同好会に参加して以来三十年余り、付かず離れず現在にいたっています。

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

菅 野 きっかけは、江国滋「微苦笑俳句コレクション」（江国滋著、実業の日本社一九九四年）を読んで、例えば、「葬儀屋の片づけはやし秋の蟬」（池田秀水）の季語の効かせ方や、「掌中の水着から海紋り出す」（大島雄作）の把握の巧みさなどのように、言葉遊びでなく事実の面白さを詠んでみたいと思いました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

菅 野 文学の素養がなくても気楽に楽しめる俳句、どこことなく面白い俳句であるところです。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

菅 野 「滑稽」の意味は、駄洒落のようにおもしろおかしく巧みにいいなすことを越えて、ウィットに富む、あるいはエスプリを利かすことであってほしいと思っています。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かった事は？

菅 野 一言で言い表せない「滑稽」の多様性に触れる機会が得られたこと。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

菅 野 良いモチーフに出会うまでひたすら待つ。出会わない限り、文字をひたすら捻くり回して駄句を生み出すばかりですね。

【代表句】

誤字脱字絵馬に残して受験生
かぼちゃ抱くミス農協のチカラ瘤
日向ぼこ前頭葉を脇に置き
会計にわが名呼ばれし春の風邪
ものの芽の着地姿勢に立ち上がる